

## 豊羽鉱山

**施設管理者** : 豊羽鉱山(株)  
**施設所在地** : 札幌市南区定山溪 8 4 9  
**調査見学時期** : 平成 7 年 9 月 20 日

### 施設概要

現在、国内で操業中の 3 ヲ所の金属鉱山の一つで、鉛、亜鉛を主体に銅、銀およびインジウムを採掘している。いつの時代に発見されたかは不明であるが、明治 25 年から 27 年の北海道庁地質報文に記載されている。

大正 3 年久原鉱業(株)により開発され、豊羽鉱山と呼ばれ銀を採取していたが、大正 10 年休止、昭和 12 年に再開され、同 25 年に豊羽鉱山(株)、同 37 年に日本鉱業(株)に合併、同 48 年、日鉱金属グループの豊羽鉱山(株)となり現在に至っている。

鉱床(平成 7 年 9 月現在) : 鉛・亜鉛を主とする鉱脈型鉱床。鉱脈鉱床としては、日本最大級の規模を持ち、全体に銀品位が高いこと、インジウムなどの希少金属を伴うこと、さらに鉱床の生成年代が非常に若いこと(300 万年～50 万年前)が特徴である。平成 7 年の出鉱量は、月産 40,000 トンである。

採掘法 : トラックレス方式によりサプレベル採掘法が採用され、採掘終了後、坑道から出た廃石(ずり)および選鉱廃滓のスライムで充填している。

その他施設 : 浮遊選鉱場、廃滓ダム、排水処理設備ならびにパイプラインがある。

